

I イエス様の素晴らしい愛

I コリント13章の愛の原語は、アガペーです。これは、人間の持つ愛ではなく、神の愛、神が私達の心を与えて下さる愛を示す。本日の愛の箇所は、私達の救い主となる為に、神であられるのに人となられたイエス様のお名前を入れるとぴったりとする。

つまりイエス様が、私達を愛されている愛が、どのような愛かが分かる。その素晴らしく深い愛を味わいたい！

1. 「愛（イエス様）は寛容であり」：4。

イエス様は、寛容な愛で私達を愛して下さい。「寛容」の原語は、「気が長い、長く苦しむ」という意味がある。つまり、イエス様は、欠点の多い私達に対して、短気ではなく、気が長く、忍耐深く、私達が長く苦しむ時も私達を見捨てず、私達と共に苦しみ、重荷を負って下さる方。イエス様は、広い心で、ありのままの私達を受け入れて下さり、「あなたとは、これ以上関われない」と言われず、ご自分から関係を断ち切る事をされず私達を愛し続けて下さる。寛容が最初にある理由はここにある。

愛は良い関係であり、三位一体の神は、互いに愛し合う交わり、関係の神。その神の御性質に似せられ造られた私達。関係が最も大切。私達の愛は、長く続かず、短気になり、関係を絶ち易いが、イエス様は、寛容な方。イエス様の愛に憩いたい。

2. 「愛（イエス様）は親切です」：4。

「親切」の原語は、「親切、いつくしみ深い、慈悲、慈愛、憐み深い」の意味がある。有名な讃美歌

「いつくしみ深き、友なるイエスは」は、この御言葉にピッタリの素晴らしい賛美歌。

イエス様は、欠点の多い私達に、親切で、いつくしみ深いお方。イエス様の愛は、優しく、暖かい愛。

3. 「愛（イエス様）は人をねたみません」：4。

イエス様は、人をねたまれない。なぜなら、自分の出来栄に左右されない父なる神の愛に満たされておられるから。私達は、人と比べ、自分より恵まれている人、優れている人をねたむ弱さを、皆、持っている。しかし、そんな私達も、良くできた時も、良くできなかった時も、若い時も老いた時も、変わらず愛して下さい。イエス様の愛をいただき続ける時、人をねたむ事から解放されて行く。イエス様は、私達の地位や能力よりも、私たち自身の存在そのものを心から愛して下さい。主は、私達を他の人と比較されない。主は、一人一人をユニークに造り、それぞれの個性、違いを与え、ねたみ合うのではなく、互いに愛し合い、協力し合うように造られた。

4. 「愛（イエス様）は自慢せず、高慢になりません」：4。

イエス様は、多くの奇蹟を行われたが、イエス様は、それらを自慢したり、高慢になられなかった。

イエス様は、こう言われた。

「子は、父がしておられることを見て行う以外には、自分からは何事も行うことができません。…わたしは、自分からは何事も行うことができません。…わたしは自分の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです」（ヨハネ5：19、30）。

私達も、イエス様の愛に満たされる時、自慢する事や高慢になる事から守られる。なぜなら、かりに、何かをやり遂げることが出来た時、それは、自分の力ではなく、神が与えられた力、命、体、能力のおかげであり、また、神が自分を支える為に周りに置かれた多くの人々の支え、祈りのおかげだと深く自覚するから。何かが出来た時、神と人々に心から感謝する人は幸い。今日、生かされていること自体を当たり前的事ではなく、感謝する人は幸い。

5. 愛（イエス様）は「礼儀に反することをせず」：5。

イエス様は、礼儀に反する事をされない。イエス様の愛を受けて、礼儀に反する事、失礼な事をしない人は

幸い。

6. 愛（イエス様）は「自分の利益を求めず」：5。

イエス様は、ご自分の利益を求めず、罪人の私達の利益（救い）を求め、最高に快適な天の位、住まいを捨て、神であられるのに人となられ、クリスマスに赤ちゃんにまでなられ、33歳まで神と人に仕えられ、33歳の時、何一つ悪い事はされていないのに、私達の罪（殺人、強盗だけでない、私達の心の罪、憎しみ、恨み、ねたみ、見下げる心、悪口、陰口、嘘、偽り、ごまかし、不正等）の贖い（イエス様の十字架の血＝命という代価を支払って、永遠の滅び、第Ⅱの死から買い戻された、救い出された）の為に、想像を絶する苦しみを十字架で受けられ、罪のない聖い血を十字架で注ぎ流し、私達の罪を償って下さった。心から感謝します。

7. 愛（イエス様）は「怒らず」：5。

この原語は、ナイフの刃先から出た動詞で、敏感に反応する事、すぐ報復するいらだちを表す。

イエス様は、すぐにいらだち、せっかちな報復をされない。私達がイエス様の愛に満たされる時、すぐにかっと怒ることをせず、祈りつつ、落ち着いた対応ができるようにイエス様は、助けてくださる。穏やかな心を下さる。

8. 愛（イエス様）は「人のした悪を思わず」：5。

「思わず」の原語には、「数える、勘定する」という意味がある。私達に愛がない時、私達は、人のした悪を赦さず、数え、勘定し、心のメモ帳に記し、根に持つ。何時までも赦さない。

しかしイエス様は、私達が、自分の罪、過ちを、正直に告白しお詫びするなら、完全に赦して下さい、二度とその事を持ち出して責めたりなさらない。私達も、イエス様の愛を受ける時、人を赦す人に変えられ続ける。

9. 愛（イエス様）は「不正を喜ばずに真理を喜びます」：6。

主の愛は、私達の不正、悪、罪を喜ばれず、真理、神の御言葉、神の前の正しさを喜び、私達を真の悔い改め（神への方向転換、神に立ち返る）に導かれる。何でも良し良しとする間違った愛ではなく、愛をもって正して下さる愛。

10. 愛（神の愛）は「すべてをがまんし」：7。

愛をもって正直に語る事をせず、どんどん心の中に恨みが、溜まるがまんではなく、愛をもって正直に相手に語っても、相手がすぐに変わらない現実を受け留め忍耐すること。神がこれまで、どんなに私の事を忍耐しておられるかを忘れない愛。

11. 愛（神からいただく）は「すべてを信じ」：7。

これは、何でも信じてだまされる愛ではなく、人のする事を、良い面から信じてあげる事。

12. 愛（神からいただく）は「すべてを期待し」：7。

過度の期待は、過度の要求に代わり、相手を押しつぶす。逆に「何も期待していないから」と言われるとがっかりする。愛あるちょうど良い期待は、相手を励ます。それが神の愛。

13. 愛（神からの）は「すべてを耐え忍ぶ」：7。

この原語は、逃げずにとどまる。主は、どんなに辛い中にも共におられる。主にとどまる時、主は支えて下さる。

14. 神の「愛は決して絶えることはありません」：8。

私たち人間の愛は、変わり、絶えてしまう。しかし、神の愛は永遠に変わらず私達を深く愛し続けて下さる。神は、私達の心に愛を与えて下さる。

Ⅱ 私達が、この素晴らしい愛に満ちたイエス様を心に迎え入れ、日々、イエス様と交わり、イエス様が
おられる教会で互いに交わり、イエス様の御言葉（聖書）で心が養われるなら、私達も愛の人に変えられ
続ける。イエス様によって希望を持って歩みたい。